

教育広報

かけはし

第43号 平成12年3月13日発行
千代田区教育委員会



江戸時代はどんな町だったのかな（千代田小）

主
な
記
事

- ☆ 番町小学校・幼稚園の校歌・園歌が決定
- ☆ 「千代田区の中学校教育に関するアンケート調査」結果について
- ☆ 学校教育のしくみがかわる

岩本町二丁目の遺跡を見学しました。ていねいに説明していただき、江戸時代の様子が目に浮かぶようでした。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

番町小学校・幼稚園の校歌・園歌が決定

番町小学校・幼稚園の校歌・園歌が新たに制定されたので紹介します。

制定にあたっては、同小学校・幼稚園関係者や地域の方々と構成された「番町幼・小協議会」を設置し検討を進めてきましたが、平成11年2月4日に開催された協議会で、「前の校歌・園歌を歌い継いでいくと同時に、21世紀を迎えて新しい時代に生きる子どもたちのための校歌・園歌を作る」ことで協議が整いました。

作曲については、番町小学校の卒業生で、日本童謡協会の会長でもあり「めだかの学校」「雪の降るまちを」「夏の思い出」等の作曲をした中田喜直氏に依頼しました。

完成した新しい校歌・園歌は、平成11年11月25日に開催された番町幼・小協議会において了承され、校長が正式に決定しました。

平成12年2月5日には、番町小学校の講堂において「校歌・園歌制定記念式」が行われ、お招きした作詞・作曲者やPTAなど多数の方々を前にして、児童・園児が元気な声で新しい校歌・園歌を歌いました。

番町幼稚園園歌

空にむかって

佐藤雅子 作詞
中田喜直 作曲

♩ = 96位 げんきよく、うつくしく

そらにむかって ぐんぐんのびる うめのしんめが かがやくように
はるにむかって いちばんさきに うめのつぼみが ふくらむように

こころもからだも おおきくそだつ みんな げんき で
あしたをゆめみる えがおがひかる みんな なかよ

やさしい こ あかるいこ ばんちよう ちえ ん
やさしい こ がんばるこ

一、空にむかって ぐんぐんのびる
梅のしんめが かがやくように
こころもからだも おおきくそだつ
みんなげんきで
やさしいこ あかるいこ
番町幼稚園

二、はるにむかって ばんさきに
梅のつぼみが ふくらむように
あしたをゆめみる えがおがひかる
みんななかよ
やさしいこ がんばるこ
番町幼稚園

番町小学校校歌

輝いて今日を

こむせたまみ 作詞
中田喜直 作曲

♩ = 96位 力強く、そして美しく

1 あさのひかりに かがやいて まゆあげいのち あたらしく
2 ともによびかけ きらめいて ほほそめこころ しなやかに

かおれ このまちに このそらに うめのつぼみが ほほえむように
はげめ にどとない このひびを うめのしるしの ほこりもたかく

ゆめをひろげあ い さあ きょうもあゆもう きょうも
りそうかかけあ い さあ あすへのびよう あすへ

あゆも う うたごえも ひかれ ひとつにひびけ

ほくのわたしの ばんちよう ばんちようしょうがっ こう

一、朝の光に 輝いて
肩あげ 生命新しく
薫れ この街に この空に
梅のつぼみが微笑むように
夢をひろげあ
さあ！ 今日も歩もう
今日も歩もう

二、ともに呼びかけ きらめいて
頬そめ 心しなやかに
はげめ二度とない この日々を
梅の記章の 誇りも高く
理想かかけあ
さあ！ 明日へ伸びよう
明日へ伸びよう
歌声も光れ 一つに響け
ぼくの わたしの 番町 番町小学校

椎の大木

九段中学校

九段中学校の校庭には、幹回り約2m四十四cm・樹高約二十m、推定樹齢三百年を超える椎の大木があります。

椎の木はブナ科シイノキ属に分類され、関東地方では「スタジイ」の名で呼ばれています。葉に光沢があり太陽の光を浴びると照り輝くので、照葉樹とも言います。その実（ドングリ）は、あく抜きをしなくても食べられるので、古くから栗に次いで重要な食料で、古事記や万葉集などにその名が見られます。

ところで、東京ではこの椎の木を防火林として植えた時期があり、九段中学校の椎の木もその名残りではないかと思われます。常緑広葉樹がいつも木の中に水分を蓄えているという性質を知り、活用した先人の知恵に感心させられます。

九段中学校の椎の大木は、同校校舎第一期工事が完了した一九五五（昭和三十）年当時、既に現在の場所になりました。以来、幾多の卒業生・在校生・教職員・学校関係者など多くの人々を校庭の片隅から静かに見守り、年輪を重ね、現在ではなくてはならない存在となつていきます。これまで幾度も枯れそうになりましたが、その都度手当をし、元気を取り戻してきました。現在も日常の剪定や消毒などの手入れは欠かせません。



S30.10.14 新校舎落成式から



西暦二千年紀に入っても生徒たちを見守る

私たちは自然というと、日常生活から離れた海や山などに探そうとしますが、学校という日常的な生活の場にも自然があることを、椎の大木を一例として、五感を使って再確認し、大切にしたいものです。

教育委員会では、平成11年度に行われた校庭改修事に合わせて、この椎の木の由来などを記した紹介板を取りつけました。

私たちが生まれる以前から、様々な環境や歴史の変化の中を生き抜いてきた椎の大木を、ぜひ実際に見て、触れて「自然」を体感することを薦めます。

問合せ 学務課学校運営係 内線3133



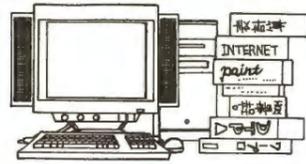
学校で教えてほしいこと (上位3回答)

(上位3回答)

「コンピュータ」が最も多く、6割を超えています。

小学校6年生

・コンピュータ	63.9%
・スポーツ	44.1%
・英語	29.7%



学校教育が担うべき役割 (上位3回答)

(上位3回答)

生徒は「社会に必要な基礎的知識・技能」が最も多く、保護者、教員はそれに加えて「集団生活に適応できる能力」が多く見られます。

中学校1,2年生

・大人になってから困らないような基礎的知識や技能を教えること	68.3%
・集団生活に必要な能力を身につけさせること	40.4%
・しつけやマナーを教えること	23.5%

小学生保護者

・集団生活に適応できる能力を身につけさせること	76.2%
・社会に必要な基礎的知識や技能を教えること	64.4%
・健全な人柄や人生観を形成させること	44.2%

小学校教員

・集団生活に適応できる能力を身につけさせること	80.6%
・社会に必要な基礎的知識や技能を教えること	72.6%
・健全な人柄や人生観を形成させること	50.0%

中学生保護者

・社会に必要な基礎的知識や技能を教えること	67.8%
・集団生活に適応できる能力を身につけさせること	66.5%
・健全な人柄や人生観を形成させること	39.4%

中学校教員

・集団生活に適応できる能力を身につけさせること	77.1%
・社会に必要な基礎的知識や技能を教えること	72.3%
・健全な人柄や人生観を形成させること	39.8%

学校の教員に期待すること (上位3回答)

(児童・生徒は「好きな先生」、教員は「期待されること」)

小学校6年生

・明るくて、ユーモアのある先生	55.1%
・全員に対して公平な先生	46.5%
・わかりやすく教えてくれる先生	29.2%

小学生保護者

・教育に情熱を持っている	51.3%
・児童・生徒の個性や人権を尊重する	46.0%
・児童・生徒に基礎・基本をわかりやすく教える	43.1%

小学校教員

・児童・生徒に基礎・基本をわかりやすく教える	75.0%
・教育に情熱を持っている	43.5%
・人間的な魅力がある	40.3%

児童は人間性を求め、保護者は教育への情熱を求めています。生徒、教員は学習面を重視しています。

中学校1,2年生

・生徒にわかりやすく教えてくれる先生	50.8%
・生徒から信頼される先生	36.9%
・生徒全員に対して公平な先生	35.9%

中学生保護者

・教育に情熱を持っている	52.1%
・児童・生徒の個性や人権を尊重する	46.8%
・児童・生徒に基礎・基本をわかりやすく教える	46.0%

中学校教員

・生徒に基礎・基本をわかりやすく教える	72.3%
・教育に情熱を持っている	48.2%
・人間的な魅力がある	38.6%

区の学校教育の重点施策 (上位3回答)

(上位3回答)

小学生保護者

・国際交流や国際理解等を重視した教育を行う	45.3%
・学校と家庭、地域社会が一体となって教育を推進する	37.1%
・情報化に対応した教育を行う	30.7%

小学校教員

・学校と家庭、地域社会が一体となって教育を推進する	44.4%
・国際交流や国際理解等を重視した教育を行う	37.9%
・地球環境を守る教育を積極的に行う	29.0%

保護者は国際的な教育を多く要望、教員は地域の連携を重視しています。

中学生保護者

・国際交流や国際理解等を重視した教育を行う	51.3%
・学校と家庭、地域社会が一体となって教育を推進する	37.1%
・情報化に対応した教育を行う	35.2%

中学校教員

・学校と家庭、地域社会が一体となって教育を推進する	33.7%
・国際交流や国際理解等を重視した教育を行う	32.5%
・情報化に対応した教育を行う	25.3%

「千代田区の中学校教育に関するアンケート調査」結果について

千代田区教育委員会では平成10年9月に学識経験者・教育関係者・PTA・区民等により構成する「中学校教育検討会」を設置し、区立の中学校を子どもたちにとって魅力あるところとするにはどうすればよいのか、子どもたちの個性を生かす中学校教育を実現するためにはどうしたらよいのか、など中学校教育を巡るさまざまな課題について多面的な検討を進めているところです。

このアンケート調査は小・中学生、保護者及び小・中学校教員の方々を対象として中学校教育に関する意識・考え方をお聞きし、今後の中学校教育検討会の調査研究に反映させることを目的として実施しました。このたび調査結果がまとまりましたので紹介します。なお、紙面の都合上、複数回答については、上位三回答を掲載しました。

これらの調査結果につきましては、今後の調査研究の貴重な資料として活用させていただきます。ご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。

【調査対象者と回収数】

調査対象	対象者数(人)	回収数(人)	回収率(%)
千代田区立小学校6年生	494	465	94.1
千代田区立中学校1,2年生	823	716	87.0
千代田区立小学校6年生保護者	494	450	91.1
千代田区立中学校1,2年生保護者	823	645	78.4
千代田区立小学校教員	143	124	86.7
千代田区立中学校教員	93	83	89.2
合計	2,870	2,483	86.5



【調査方法】

学校を通じて調査表を配布し、回収しました。

【調査期間】

平成11年10月20日～10月26日

調査結果

学校や教育についての問題点 (上位3回答)

(上位3回答)

児童・生徒は学校の設備を、保護者、教員は時間的なゆとりがないことを指摘しています。

小学校6年生

・学校の設備が整っていない	34.2%
・先生がきびしい	13.1%
・先生と話をすることが少ない	11.0%

小学生保護者

・先生に時間的なゆとりがない	40.2%
・児童・生徒に時間的なゆとりがない	39.1%
・児童・生徒と先生とのつながりが薄い	32.9%

小学校教員

・教員に時間的なゆとりがない	62.1%
・児童・生徒に時間的なゆとりがない	50.0%
・学習に遅れている子どもへの個別指導が十分でない	29.8%

中学校1,2年生

・学校の設備が整っていない	27.7%
・英語の力が十分につかない	26.8%
・部活動が十分できない	25.7%

中学生保護者

・児童・生徒に時間的なゆとりがない	36.1%
・実用的な外国語教育が十分行われていない	34.4%
・学習に遅れている子どもへの個別指導が十分でない	34.0%

中学校教員

・教員に時間的なゆとりがない	83.1%
・生徒に時間的なゆとりがない	53.0%
・学習に遅れている子どもへの個別指導が十分でない	38.6%

「これからの中学校教育についての意見を聴く会」を開催します

検討会では、さらに幅広く区民の方々、保護者、学校関係者等の中学校教育に対するご意見を伺うため、「これからの中学校教育についての意見を聴く会」を開催しますので、ぜひご参加下さい。

とき 平成12年4月8日(土) 午後2時～4時

会場 神田さくら館内 千代田区立教育研究所7階研修室

千代田区神田司町2-16

問合せ 指導室 ☎(3264)0151 内線3167・3168

※この会で、ご意見を発表して下さる方を募集しております。住所、氏名、年齢、連絡先電話番号をご記入の上、下記あてに3月27日(月)までにハガキでお申し込みください。(※なお、時間の都合上、申込者多数の際は、抽選とさせていただきます。)

あて先 〒102-8688 千代田区九段南1-6-11 千代田区教育委員会指導室

教科以外に学びたいこと (学んでほしいこと) (上位3回答)		「自立心」、「社会のルール」が保護者、教員で上位を占めています。	
中学校1,2年生			
・パソコンやインターネットなどの操作	52.4%		
・スポーツ・芸術	35.3%		
・外国語(英語など)を話せるようになること	31.8%		
小学生保護者		中学生保護者	
・自立心	50.9%	・自立心	50.5%
・社会のルール	48.4%	・社会のルール	49.0%
・チャレンジ精神	41.8%	・チャレンジ精神	46.4%
小学校教員		中学校教員	
・社会のルール	70.2%	・社会のルール	79.5%
・自立心	50.0%	・自立心	53.0%
・人権思想(あらゆる差別を許さない教育)	38.7%	・人権思想(あらゆる差別を許さない教育)	31.3%

通学区域弾力化についての意見 (児童・生徒は「独自性をもった公立中学校への進学希望」)		7割以上の児童が「自分の希望する特色のある中学校を選びたい」と回答しています。	
小学校6年生		中学校1,2年生	
・自分の希望する特色のある中学校を選びたい	74.2%	・自分の希望する特色のある中学校を選びたい	49.9%
・自宅から近い中学校でいつも学ぶのがよい	7.5%	・今の学校で十分だと思う	27.8%
・わからない	10.5%	・わからない	15.8%
小学生保護者		中学生保護者	
・生徒の自主性が尊重され、非常に良いことだと思う	58.9%	・生徒の自主性が尊重され、非常に良いことだと思う	53.6%
・中学校進学の段階での選択は難しいと思う	26.9%	・中学校進学の段階での選択は難しいと思う	30.4%
・現状どおり指定された中学校に通うのがよいと思う	5.8%	・現状どおり指定された中学校に通うのがよいと思う	7.4%
小学校教員		中学校教員	
・生徒の自主性が尊重され、非常に良いことだと思う	39.5%	・生徒の自主性が尊重され、非常に良いことだと思う	30.1%
・中学校進学の段階での選択は難しいと思う	36.3%	・中学校進学の段階での選択は難しいと思う	34.9%
・現状どおり指定された中学校に通うのがよいと思う	16.1%	・現状どおり指定された中学校に通うのがよいと思う	19.3%

児童・生徒の評価方法 (上位3回答)		児童・生徒、保護者は努力する姿勢で、教員は自発性での評価を望んでいます。	
小学校6年生		中学校1,2年生	
・努力したりがんばろうとする気持を持っていること	43.7%	・努力したりがんばろうとする気持を持っていること	37.4%
・ほかの人に対する思いやりや協調性があること	34.0%	・ほかの人に対する思いやりや協調性があること	33.9%
・スポーツが上手なこと	24.5%	・新しいものや個性的なものをつくり出す力があること	24.4%
小学生保護者		中学生保護者	
・努力する姿勢や向上心	71.1%	・努力する姿勢や向上心	72.7%
・自らすすんで学び、考える力を持っていること	70.4%	・自らすすんで学び、考える力を持っていること	68.4%
・他人に対する思いやりや協調性	57.3%	・他人に対する思いやりや協調性	54.3%
小学校教員		中学校教員	
・自らすすんで学び、考える力を持っていること	72.6%	・自らすすんで学び、考える力を持っていること	63.9%
・他人に対する思いやりや協調性	63.7%	・努力する姿勢や向上心	62.7%
・努力する姿勢や向上心	62.1%	・他人に対する思いやりや協調性	54.2%



進学時の公立・私立選択		小学生児童・保護者は私立校への進学希望が多いようです。	
小学校6年生		中学校1,2年生	
・公立校に行きたい	31.8%	・公立校を希望していた	28.2%
・私立校に行きたい	49.0%	・私立校を希望していた	16.2%
・わからない	17.0%	・特に希望はなかった	52.5%
小学生保護者		中学生保護者	
・公立中学校に進学してほしい	41.6%	・公立中学校に進学してほしいと思っていた	48.8%
・私立中学校に進学してほしい	47.6%	・私立中学校に進学してほしいと思っていた	20.6%
・まだ決めていない	8.9%	・本人の自主性にまかせた	27.6%

公立中学校を希望した理由 (上位3回答)		私立中学校を希望した理由 (上位3回答)	
公立の志望理由では友人の数と教育費の安さが多く、私立の志望理由では中高一貫教育が保護者で7割を超えています。			
小学校6年生		小学校6年生	
・近所の友だちが多く進学するから	41.9%	・学校行事や部活動を楽しみたいので	47.8%
・家から近いので	28.4%	・学校の雰囲気よさそうだから	44.7%
・兄や姉も通っていたので	27.7%	・高校進学のことを考えて	40.8%
中学校1,2年生		中学校1,2年生	
・地域の友人が多く進学するから	36.1%	・高校進学のことを考えて	59.5%
・家から近いので	28.2%	・学校の雰囲気よさそうだったから	35.3%
・男女共学だから	25.7%	・学校行事や部活動を楽しみたいので	30.2%
小学生保護者		小学生保護者	
・教育費が安いから	54.0%	・中高一貫教育だから(私立校の場合)	75.2%
・男女共学だから	40.6%	・学校の伝統や特色に魅力を感じるから	41.6%
・地域の友だちが多く進学するから	39.0%	・学習指導がきめ細かで充実しているから	41.1%
中学生保護者		中学生保護者	
・教育費が安いから	53.0%	・中高一貫教育だから(私立校の場合)	72.2%
・男女共学だから	41.6%	・学校の特色や個性に魅力を感じたから	51.1%
・通学の便がよいから	29.5%	・学習指導がきめ細かで充実しているから	38.3%

魅力ある中学校 (小学生は「進みたいと思う中学校」) (上位3回答)		児童・生徒は部活動を重視し、保護者は国際教育、教員は体験学習に魅力を感じているようです。	
小学校6年生		中学校1,2年生	
・部活動や行事がさかんな学校	47.7%	・部活動や行事がさかんな学校	46.6%
・体育やスポーツをいろいろ教えてくれる学校	43.9%	・健康教育・スポーツに力を入れる学校	40.2%
・コンピュータやインターネットについて教えてくれる学校	43.0%	・体験学習を重視する学校	31.6%
小学生保護者		中学生保護者	
・国際化に対応する学習を重視する学校	47.3%	・国際化に対応する学習を重視する学校	51.8%
・体験学習を重視する学校	42.9%	・体験学習を重視する学校	44.5%
・生徒の進学希望にこたえる学校	38.4%	・生徒の進学希望にこたえる学校	29.0%
小学校教員		中学校教員	
・体験学習を重視する学校	52.4%	・体験学習を重視する学校	39.8%
・国際化に対応する学習を重視する学校	36.3%	・国際化に対応する学習を重視する学校	32.5%
・ボランティア活動など福祉教育に力を入れる学校	29.0%	・情報化に対応する学習を重視する学校	31.3%

中高一貫校に通いたくない理由 (上位3回答)		生徒、保護者とも意見は分かれています。	
中学校1,2年生			
・高校入試というステップがなくなり、学習意欲や学力が低下するおそれがあるから	38.9%		
・年齢の差が大きいため先輩や後輩との交流がむずかしいから	31.5%		
・6年間同じメンバーであることに不安を感じるから	31.0%		
小学生保護者		中学生保護者	
・生徒集団が長期間同一メンバーで固定化することにより、学習環境になじめない生徒が生じたりするおそれがあるから	31.4%	・小学校卒業段階での進路選択は難しいから	45.5%
・小学校卒業段階での進路選択は難しいから	25.6%	・生徒集団が長期間同一メンバーで固定化することにより、学習環境になじめない生徒が生じたりするおそれがあるから	33.6%
・高校入試というステップがなくなり、学習意欲や学力が低下するおそれがあるから	25.6%	・高校入試というステップがなくなり、学習意欲や学力が低下するおそれがあるから	26.4%

公立中高一貫校の必要性		小学校教員は5割が必要と感じているのに対し、中学校教員では2割台にとどまり、「必要ないと思う」が5割近くを占めています。	
小学校教員			
・必要だと思う	50.8%		
・必要ないと思う	25.8%		
・その他	0.8%		
・わからない	15.3%		
中学校教員			
・必要だと思う	22.9%		
・必要ないと思う	45.8%		
・その他	2.4%		
・わからない	19.3%		

公立の中高一貫校が必要だと思う理由 (上位3回答)		小学校教員は一貫教育の可能性に期待し、中学校教員は人間性の育成に期待しています。	
小学校教員			
・6年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、効果的な一貫した教育が可能になるから	74.6%		
・6年間にわたり生徒を継続的に把握することにより生徒の個性を伸ばしたり、優れた才能を発見し伸ばせるから	41.3%		
・高校入試の影響を受けずにゆとりのある安定した学校生活がおくれるから	36.5%		
中学校教員			
・中学1年生から高校3年生までの異なる年齢集団による活動が行えることにより、社会性や豊かな人間性をより育成できるから	63.2%		
・6年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、効果的な一貫した教育が可能になるから	47.4%		
・高校入試の影響を受けずにゆとりのある安定した学校生活がおくれるから	36.8%		
・6年間にわたり生徒を継続的に把握することにより生徒の個性を伸ばしたり、優れた才能を発見し伸ばせるから	36.8%		

公立の中高一貫校が必要ないと思う理由 (上位3回答)		小学校教員は進路選択の難しさを指摘し、中学校教員はメンバーが固定することを懸念しています。	
小学校教員			
・小学校卒業段階での進路選択は難しいから	65.6%		
・生徒集団が長期間同一メンバーで固定化することにより、学習環境になじめない生徒が生じたりするおそれがあるから	37.5%		
・受験戦争の低年齢化につながるおそれがあるから	37.5%		
中学校教員			
・生徒集団が長期間同一メンバーで固定化することにより、学習環境になじめない生徒が生じたりするおそれがあるから	52.6%		
・受験戦争の低年齢化につながるおそれがあるから	31.6%		
・小学校卒業段階での進路選択は難しいから	28.9%		

中高一貫校入学者の選定方法 (上位3回答)		保護者、教員とも面接による選考を重視しています。	
小学生保護者			
・面接	70.0%		
・小学校の調査書(生活の様子や学習記録を記入したもの)	43.8%		
・本人の作文など	42.0%		
小学校教員			
・面接	75.0%		
・本人の作文など	45.2%		
・小学校の調査書(生活の様子や学習記録を記入したもの)	34.7%		
中学生保護者			
・面接	74.7%		
・小学校の調査書(生活の様子や学習記録を記入したもの)	51.5%		
・本人の作文など	39.1%		
中学校教員			
・面接	66.3%		
・本人の作文など	43.4%		
・抽選	28.9%		

教員以外の社会人からの授業		児童・生徒で「受けてみたい」が5割前後。導入時期では小学校段階からの導入を求める声が多くみられます。	
小学校6年生			
・受けてみたい	54.0%		
・受けてみたいとは思わない	12.0%		
・その他	5.2%		
・わからない	20.6%		
小学生保護者			
・小学校段階から積極的に導入すべきだと思う	61.1%		
・中学校段階から積極的に導入すべきだと思う	17.3%		
・高校段階から積極的に導入すべきだと思う	4.7%		
・学校では教員による授業を中心にすべきだと思う	8.0%		
・その他	1.3%		
・わからない	4.9%		
小学校教員			
・小学校段階から積極的に導入すべきだと思う	66.1%		
・中学校段階から積極的に導入すべきだと思う	6.5%		
・高校段階から積極的に導入すべきだと思う	2.4%		
・学校では教員による授業を中心にすべきだと思う	10.5%		
・その他	3.2%		
・わからない	4.0%		
中学校1,2年生			
・受けてみたい	47.8%		
・受けてみたいとは思わない	15.9%		
・その他	1.7%		
・わからない	28.6%		
中学生保護者			
・小学校段階から積極的に導入すべきだと思う	57.8%		
・中学校段階から積極的に導入すべきだと思う	20.3%		
・高校段階から積極的に導入すべきだと思う	4.2%		
・学校では教員による授業を中心にすべきだと思う	6.8%		
・その他	0.9%		
・わからない	7.8%		
中学校教員			
・小学校段階から積極的に導入すべきだと思う	41.0%		
・中学校段階から積極的に導入すべきだと思う	7.2%		
・高校段階から積極的に導入すべきだと思う	9.6%		
・学校では教員による授業を中心にすべきだと思う	13.3%		
・その他	12.0%		
・わからない	6.0%		

公立の中高一貫校への進学希望		入学希望は児童・生徒より保護者に多くみられます。	
小学校6年生			
・ぜひ入りたい	28.4%		
・どちらかといえば入りたい	28.0%		
・入りたくない	17.2%		
・わからない	18.7%		
小学生保護者			
・入学させたいと思う	34.4%		
・どちらかといえば入学させたい	25.3%		
・あまり入学させたいと思わない	12.7%		
・入学させたいと思わない	6.4%		
・わからない	18.7%		
中学校1,2年生			
・ぜひ通ってみたい	21.8%		
・どちらかといえば通ってみたい	24.4%		
・あまり通ってみたいと思わない	28.4%		
・その他	0.8%		
・わからない	18.6%		
中学生保護者			
・入学させたいと思う	40.5%		
・どちらかといえば入学させたかった	27.8%		
・あまり入学させたかったと思わない	11.8%		
・入学させたかったと思わない	5.3%		
・わからない	11.6%		

中高一貫校に通いたい理由 (上位3回答)		高校入試がないことが、理由として多くみられます。	
中学校1,2年生			
・高校入試がなく、ゆとりのある学校生活がおくれるから	81.3%		
・いろいろな年齢の生徒がいるので、先輩・後輩の交流が活発になり、部活動や行事が盛んになりそうだから	36.6%		
・6年間にわたっての教育を受けられることで、自分の個性や才能などを伸ばせると思うから	32.9%		
小学生保護者			
・高校入試の影響を受けずにゆとりのある安定した学校生活がおくれるから	66.2%		
・6年間にわたり生徒を継続的に把握することにより生徒の個性を伸ばしたり、優れた才能を発見し伸ばせるから	46.8%		
・6年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、効果的な一貫した教育が可能になるから	42.8%		
中学生保護者			
・高校入試の影響を受けずにゆとりのある安定した学校生活がおくれるから	70.0%		
・6年間にわたり生徒を継続的に把握することにより生徒の個性を伸ばしたり、優れた才能を発見し伸ばせるから	49.8%		
・6年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、効果的な一貫した教育が可能になるから	39.5%		

学校教育のしくみが変わる — 平成十二年四月から —

平成十年四月に特別区制度改革関連法が国会で可決され、五月八日、「地方自治法等の一部を改正する法律」として公布されました。これにより、千代田区は平成十二年四月一日から名実ともに自立した、区民の皆さんに身近な基礎的公共団体となります。

法律の改正前まで、特別区（東京二十三区）は、東京都の内部団体と位置付けられ、一般の市町村に比較して特別区が行うことができる事務（仕事）が制限されていました。

今回の法律改正により、区内のごみは区が収集・運搬することになるなど、三千八百の事務が東京都から特別区に移管されることとなります。

教育の分野では、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第五十九条が廃止されました。これにより、現在は東京都教育委員会が行っている区立学校の教育職員の任用（採用したり、昇任させたりすること）の一部、その他の身分取り扱い、教育課程及び教科書採択などに関する事務が、平成十二年四月から千代田区教育委員会の事務となります。

具体的には次のとおりです。

教育職員の身分の取り扱い

区立幼稚園教育職員の任用や服務監督

（法律） 条例、規則で定められたように勤務しているか、身上一般に関することなど身分取り扱いについて、すべての事務が千代田区教育委員会の事務となります。

小・中学校の教育職員の任用については、従来とおり東京都教育委員会の権限のままです。それは、東京都が給与を負擔している小・中学校の教育職員を任用する権限は、東京都教育委員会に属するという規定が別にあるからです。つまり、区が給与を負擔していた幼稚園教育職員の任用その他の身分取り扱いを東京都教育委員会が行っていたことが特例だったわけです。小・中学校の教育職員については、千代田区教育委員会が行うこととなるのは、東京都が行う任用などについての内申（内々に意見を述べること）、服務監督に関する事務です。

教育課程の取り扱い

区立学校の教育課程について教育法令や学習指導要領などに則って千代田区教育委員会が規則を定めて、区立学校からの教育課程の届け出を受理し、分析し、必要な指導、助言などを行うことができようになります。これまでのように、東京都教育委員会の内部組織的な立場ではなく、千代田区教育委員会が自らの法的権限に基づいて事務処理を行うこととなるわけでは

なるわけです。

なお、届け出る教育課程の具体的な内容は、教育目標、指導の重点、授業日数、及び授業時数の配当、学校行事です。教育課程は、学校の教育計画ですから、各学校、幼稚園において編成し、教育委員会に届け出るようになっていきます。

教科書その他の教材の取り扱い

学校で使用する教科書については、法律で、文部大臣の検定した教科書の中から採択（この教科書を使用するか決めること）しなければならぬことになっていきます。これまで千代田区の学校でありながら、どの教科書を使用するかを決めるのは東京都教育委員会の権限となっていました。これからは千代田区教育委員会が、権限と責任をもって教科書の採択を行うこととなります。

その他の教材とは、具体的には副読本、学習帳、地図、ビデオなどが考えられ、補助教材とも呼ばれていますが、これについては従前どおりどの教材を使用するかは千代田区教育委員会の権限です。

【東京都教育委員会との役割分担】

今回の東京都に関する特例の廃止により、これまで一般の市の教育委員会としての性格も有していた東京都教育委員会は、他の道府県教育委員会とまったく同様になります。東京都教育委員会は、都全体の教育事務を行い、千代田区教育委

バスケットのスター選手訪問

—— 富士見小 ——

1月12日にステイプ・バード選手（東芝レッドサンダース）が富士見小を訪れ、6年生にバスケットの基礎を教えてくださいました。

バード選手はNBA（アメリカのプロバスケット）でのプレー経験もあり、オールジャパンでの優勝の原動力にもなりました。

指導を受けた子どもたちは、始めはぎこちない動きでしたが、バード選手の「Good!!」の声に照れたように笑顔を浮かべていました。

バード選手は「このような機会を与えてくださり感謝しています。要請があれば他の学校にも訪れたい。」と話してくださいました。



楽しく一緒に、和泉小で「みんなの体操」



2月25日、和泉小学校体育館で郵政省簡易保険局・NHK製作の「みんなの体操」のビデオ贈呈式が行われました。この体操は、ラジオ体操第一や第二に続く、お年寄りや身体に不自由がある人にも気軽にできる体操です。

ラジオ体操は昭和3年11月、簡易保険局が国民の健康増進のために国民保険体操と名付けて制定し、ラジオで全国に放送されました。学校近くの佐久間公園は、当時万世橋警察署の高巡査が町内会の人達と共に全国に先駆けて「早起きラジオ体操会」を始めたゆかりの地です。簡易保険局の方からビデオを贈呈された後、和泉小の児童と参加者全員が「みんなの体操」で、爽やかな汗を流しました。

九段中都大会で優勝 — 英語学会大会 —

昨年12月5日に第52回東京都中学校英語学会大会が開催されました。都内各区市町村から予選を通過した国公立の中学校が、熱演を競い合うなかで、九段中学校が、見事優勝に輝きました。

授業で取り上げたアカデミー賞映画の「今を生きて」を、顧問の井村先生が20分の演劇用に脚本を書き下ろし、生徒たちは日々練習に励み、大会に臨みました。演技が終わった瞬間、他校の生徒から「ラブロー」の歓声が沸き起こる程、素晴らしい演技でした。

井村先生はこの活動を通じて、生徒たちには、陰で支えてくれる人に対して常に感謝の気持ちを持つこと、日頃から感謝する気持ちを忘れないこと、物事をやり遂げる努力がどんなに大切か知ることを身につけて欲しいと願っていました。



演題はSeize the Day '99~The Door to 2000~

員会は基礎的な地方公共団体の教育委員会として千代田区の特徴を踏まえた教育行政を行っていくこととなります。

【千代田区教育委員会の取組み】

千代田区教育委員会は現在、二つの新しい取組みを行っています。一つは、千代田区立中学校の将来像を検討することです。平成十年九月に「千代田区中学校教育検討会」を設置し、平成十二年八月に最終報告が出される予定です。（今号4ページからの記事も参照下さい。）

もう一つは、幼稚園における「預かり保育」の実施です。平成十二年四月から区立富士見幼稚園と千代田幼稚園において、教育課程に係る教育時間の終了後、保護者の希望により午後四時まで園児を預かることとなります。

このように、区民の皆さんの要望や千代田区の特徴を生かした教育行政を展開していくため、千代田区教育委員会は今回の制度改革を追い風に、より一層区民の皆さんの期待に応えていきたいと考えています。

問合せ 指導室 内3165



麩町小学校・幼稚園が移転します

麩町小学校・幼稚園は、改築にともなう平成12年4月から平成15年3月までの期間、旧永田町小学校の仮校舎に移転します。

改築の間中は、いろいろと迷惑をおかけしますが、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

移転先 〒100-0014 千代田区永田町2-19-1
 小学校 (32263) 73337
 幼稚園 (32263) 73330
 （現在の番号と変わりません）

今川中学校仮移転について

今川中学校の校舎の耐震診断の結果「倒壊の危険性が高い」との報告がありました。そのため緊急避難として、内神田社会教育会館（総合体育館）に仮移転し、授業を行っています。

今後の今川中学校の校舎については、PTAを含め、関係者の皆様と協議をすすめています。

今川中学校仮移転先
 〒101-0047 千代田区内神田2-1-8
 ☎(25522) 02588
 ☎(電話番号は変わりました)

随想

きょういく

活字離れが言われてから久しい。子どもたちばかりでなく大人たちも含めてその傾向は、年々強まって来ている。

出版界は平成十一年十二月までで三年連続してマイナス成長、すなわち前年の実績を下まわる状況となった。

過去にもテレビが登場した時、本はテレビにとって代わられるのではないかと危機感を募らせたことがあったが、最近のこの状況はかつてないほど深刻なものである。

携帯電話やインターネットの利用が高まり、相対的に読書時間は減少し続けているのが実態ではなからうか。

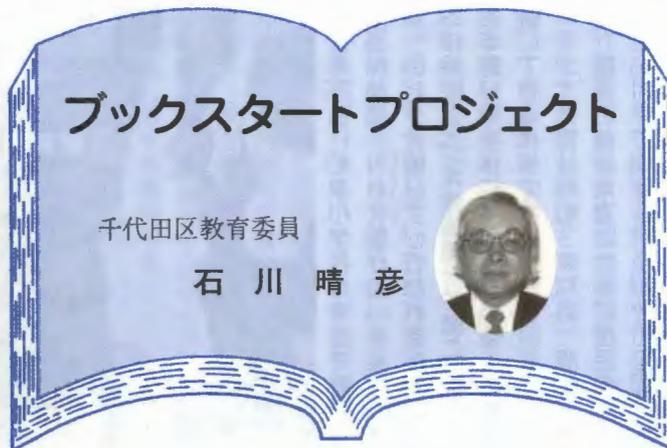
情報環境というものが、かつてないほど急激にかつ大きく変わろうとしている今、改めて読書の重要性が見直されている。そして昨年八月、国会において二〇〇〇年を「子ども読書年」とすることが決議された。

五月五日のこどもの日に、上野に国際子ども図書館が開館するのを中心に、子ども読書年のさまざまな行事が予定されている。

二十一世紀を担う子どもたちの人間形成にとって読書は欠かすことが出来ないものであり、読書推進運動は政官民一体となって取り組む国民運動と言っても過言ではない。

小さな試みでスタートした朝の十分間読書運動は今、大きなうねりとなって、全国の小中学校に拡がりはじめている。

始業前の十分間の読書が、昼休み、あるいは放課後の読書へとつながり、読書することの喜び、楽しみを見出した子どもたちが増えて来ていることは、すばら



しいことである。

この運動も含めてさまざまな読書推進運動を展開してゆきたいものだ。その中の一つに、イギリス・バーミンガムで九二年から行われている読書推進プロジェクトがある。名付けてブックスタートプロジェクト。

新生児が六カ月検診を受ける際、「絵

本二冊」「赤ちゃん」と「本の時間」を持つ際のアドバイス集、「ブックガイド」、「地域の図書館への招待状」、「会員カード」、等々をセットにしたパックを無料で配布する。

乳幼児から親子で「本の時間」を持つことの意味と重要性を学問的に調査研究している。「赤ちゃん」と「本の時間」を持つこと」「それを習慣化させる」「家庭で子どもの読み書き能力の基礎を培う」「本から得られる喜びや満足感を親子で分かち合う」の四点を支援する側面もあるが、調査結果からわかることは、このブックスタートファミリーでは、①本への意識が格段と高まった。②親子の「本の時間」がより長く持たれるようになった。③図書館の加入者が、大人、子ども共に増加した。④家庭での読書の時間が増えた。⑤子どもの集中力が増し、好奇心が旺盛になったなどの効果があり、このブックスタートファミリー以外のグループと比較すると子どもの言語的、数学的思考能力の双方に大きな影響を与えることが証明されたと報告している。日本でもぜひこのブックスタートプロジェクトを研究してみたいものである。

いしかわ はるひこ
千代田区教育委員
会社社長

きょういく

随想

編集後記

3月は弥生とも言われ、「草木が勢いよく生い茂る」という意味だそうです。子どもたちにとっても、入学や進級を間近にし、胸を躍らせている時期ですね。平成12年4月から特別区制度改革により、千代田区も区民の皆さんに身近な基礎的公共団体となります。教育委員会も皆さんの要望や千代田区の特徴を生かした教育行政を展開していきます。

さて、今号では番町小学校・幼稚園の校歌・園歌を紹介しました。これにより、千代田区立の全ての小学校・幼稚園の新しい校歌・園歌が揃いました。各校・各園の特色や、児童・園児の夢や希望が込められた校歌・園歌は、これから長く歌い継がれ、親しまれていくことでしょう。「中学校教育に関するアンケート調査の結果」について、皆さんはどのような感想を持たれたでしょうか。検討会では、さらに4月8日(土)に、多くの方からご意見を伺う「これからの中学校教育についての意見を聴く会」を開催します。大勢の方の参加をお待ちしています。「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。

教育広報「かけはし」第四十三号
平成12年3月13日発行
編集発行/千代田区教育委員会
☎102 8688 千代田区九段南1-6-11
☎(3)2664-0151 内3114